

いい声 いい顔 いい心

主幹だより No.3 5

文責：城

書初大会

1/13（金）に校内書初大会が行われました。山口先生による楷書の書き方ポイント指導により子供たちは整った字を書くコツが分かり、高木先生・中原先生による書道パフォーマンスによって大会への意欲が高揚しました。そして、いよいよ自分で書く時間です。子供たちは良い作品を書こうと取り組んでいました。山口先生がおっしゃるように「いい声 いい顔 いい心」に加えた「いい字」が体现できたのではないのでしょうか。放課後は、各学年部の先生方が頭を抱えながら審査をされていました。作品掲示、表彰が楽しみです。



集大成に向けて

八千代座公演に向けて担任の先生方は気が気じゃないかもしれませんが、6年生が生き生きと練習や準備に取り組んでいます。とても楽しそうです。先輩の姿が記憶に残っていることでしょう。それを超えようと頑張る6年生。それを他学年も感じとり、応援しようとする雰囲気が醸成されています。「山小の集大成」といわれる所以ですね。公演までもう少し、体調に気をつけながら山小の良さを伝えてもらいたいものです。



1 月半日研

1/20（金）は山鹿市教育会1月半日研があります。部会としては、今年度最後の活動です。先生方一人一人の教育の実践と研究の深化・充実を図ることができたことと思います。各部会での学びを山小職員にも返していただけたらありがたいです。教育会に関するご意見等は、各部会に出されるか、城までお願いします。

～ティータイム～

「後悔」

はっきり言って父は字がうまい。その父がこの日落ち込んで帰ってきた。菊池郡市の毛筆・硬筆展（昔あった）の審査会の日だ。ずらりと並ぶ秀作を見ながら私が通う七城小の担当の先生が父に言った。「あた（あんた）は、人（勤務校の児童）に字を教える前に、自分の息子（私）に字を教えなせ」返す言葉がなかったのだろう。「〇〇先生に、ぎゃん言われた」と母に悲しそうに伝えていたのを、小学時代の私は耳にした。以前も書いたように私は負けず嫌いだったので、一番早く終わらないと嫌だった。字はめちゃくちゃ汚かったのだ。

その後、中学生になった私。母も私の担任から言われたらしい。（母とその先生は、以前同働したことあり）「あたげん子は、字の汚なか〜。テストで×ばつけようでするばってん、よ〜く見ると合っとな〜」

私の兄と姉は小学時代、父に習字を習っていたので、字がうまい。習っていないのは私だけ。父が教えようと思ったときには、すたこらさっさと遊びに行っていたのだった。

先日、書初大会で、山口先生、高木先生、中原先生の素晴らしい書を見た。「あの時習っておけば良かったな」と大人になって後悔するのだった。



